

学思

83

2025年7月～9月

「学びて思わざれば則ち罔く、思いて学ばざれば則ち殆し。」——『論語・為政篇』



目次

●センター長のコラム	2
●活動報告	3
・坂口志文先生 ノーベル生理学・医学賞受賞決定にあたっての理事長メッセージ	
・北川進先生 ノーベル化学賞受賞決定にあたっての理事長メッセージ	
・JSPSのタベ・新事務所お披露目会	
・NSFC-CAS-JSPS 共同シンポジウム	
・JSPS モンゴル同窓会年会・交流会	
・第10回在中国日本人研究者ネットワークさろん	
・電子科技大学におけるJSPS事業説明会	
・第18回日韓研究者交流協会（JSPS韓国同窓会）シンポジウム	
●編集後記	8



JSPS BEIJING
OFFICE

無用之用と基礎科学

国慶節の大型連休で羽を伸ばしていたところ、日本から嬉しいニュースが入ってきました。10月6日に坂口志文先生がノーベル生理学・医学賞を、8日には北川進先生がノーベル化学賞を受賞することが発表されたのです。両先生とも、JSPSの科学研究費などにより研究が支援されてきただけでなく、各種委員会の委員を歴任されるなど、JSPS事業の運営面でも多大なご尽力を賜っており、さっそくJSPSの理事長からお祝いのメッセージが発表されています。

お二人とも、受賞決定後のインタビューでは、受賞の喜びとともに日本の基礎科学に対する支援の重要性を強調されていました。ノーベル賞を受賞した日本の研究者が、日本の研究力の低迷に危機感を抱き、基礎研究への支援を訴えることは恒例化しているともいえます。2016年に生理学・医学賞を受賞した大隅良典先生も、基礎科学の重要性を強調し、「役に立つかどうか」を目的とせず「知りたいこと」を追求する研究の価値を訴えていました。研究者の自由な発想に基づく研究の支援を旨とするJSPSとしては、このような声を真摯に受け止めるとともに、事業を拡充するうえでの追い風となることを期待したいところです。

ところで、北川先生のノーベル賞受賞に至った金属有機構造体の開発のきっかけは、学生時代に読んだ書籍にあった老荘思想の「無用之用」という考え方だったとのことでした。老子は「有」(形のあるもの)が働きを発揮するのは、「無」(形のないもの)が役割を果たしているからだと説いており、莊子は『莊子 人間世篇』で「人皆知有用之用、而莫知無用之用也（人は皆、役に立つものが役に立つことは知っているが、役に立たないものが役に立つことを知らない）」と述べています。何の役に立つか分からぬ基礎研究を支援することは、限られた資金の無駄遣いであると批判されることが時にありますが、この思想はその意義を改めて浮彫りにするものといえましょう。

さらに興味深く思ったのは、北川先生を科学の世界に導いたのが、中学生の頃に読んだアメリカのSF作家フレドリック・ブラウンの本だったということです。今回のノーベル賞受賞は、日本の研究の底力を示すものとなりましたが、その生みの親として現代のアメリカ文学や紀元前の中国哲学といった「知」の存在があったわけです。まさに知的文化遺産には国境や時代の制約はなく、「人類の共通の財産」として守られ、次世代に伝えられるべきものであると改めて感じました。

センター長 山口英幸

坂口志文先生 ノーベル生理学・医学賞 受賞決定にあたっての理事長メッセージ

このたび、大阪大学免疫学フロンティア研究センター（WPI-IFReC）特任教授 坂口志文先生のノーベル生理学・医学賞受賞が決定されましたことを心よりお祝い申し上げます。

先生の研究は、免疫応答の制御という生命現象の根幹に迫るものであり、その長年にわたる地道な基礎研究の積み重ねが、今回の世界的な評価へと結実いたしました。

今回受賞理由となった主な研究は、坂口先生が1995年に発表された、免疫応答の制御において中心的な役割を果たす制御性T細胞の発見です。以降も制御性T細胞の分化に必須である転写因子 Foxp3 の発見など、坂口先生の制御性T細胞に関する様々な成果が科学研究費助成事業（科研費）により支援されてきました。坂口先生は免疫学の世界的研究拠点である WPI-IFReC で活躍され、長年にわたる先生の研究が世界的に高く評価されたことを大変嬉しく存じます。

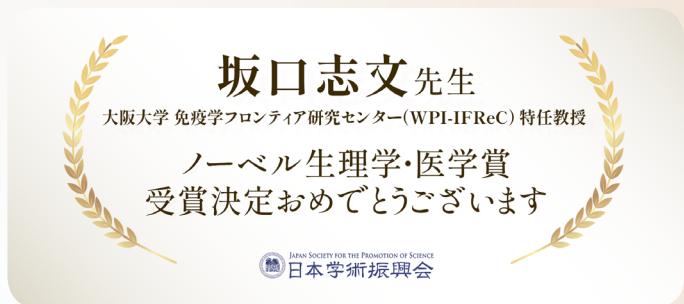
日本学術振興会（JSPS）では、科研費をはじめとする諸事業を通じて研究者の自由な発想に基づく独創的・先駆的な研究への支援を行っております。

このたびの受賞決定は、こうした基礎研究の継続的な支援の

意義を示すものであり、基礎研究に携わる人々や若い研究者たちに、大きな勇気を与えるものです。

日本学術振興会としては、これからも、研究者の自由な発想から生まれた多様で独創的な研究や、若手研究者の挑戦を支援していくことで、イノベーションの源泉である学術研究を通じて世界の発展に一層貢献できるよう、その役割を果たしてまいります。

独立行政法人日本学術振興会 理事長
杉野 剛



北川進先生 ノーベル化学賞 受賞決定にあたっての理事長メッセージ

京都大学理事・副学長／物質・細胞統合システム拠点（WPI-iCeMS）特別教授（前拠点長） 北川進先生のノーベル化学賞受賞が決定されましたこと、心よりお祝い申し上げます。

北川先生は、今までにない新しいタイプの多孔性材料（多孔性配位高分子）を開発され、そこに大量の気体の取り込みや選択的ガス吸着が可能なことを世界で初めて立証されました。この研究は、エネルギー・環境・医療分野の問題解決に大きく貢献すると期待されています。

こうした研究は、1990年代から科学研究費助成事業（科研費）により支援されてきました。長年にわたる先生の研究が世界的に高く評価され、今回の受賞にいたりましたことを大変嬉しく存じます。

先生は本会が事務局を務める世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）の拠点の一つ、iCeMSの拠点長としても、材料化学と生命化学の融合による国際的な研究拠点の発展を先導して来られました。さらに、北川先生には、平成16（2004）年から3年度にわたって、本会の学術システム研究センターの専門研究員を務められ、学術研究の振興に深くご尽力いただきました。

このたびの先生のノーベル化学賞受賞は、学術研究に携わる多くの研究者、ならびにこれから時代を担う若き研究者の皆さんにとって、限りない希望と力強い励ましとなるものでしょう。

日本学術振興会では、科研費をはじめとする諸事業を通じて研究者の自由な発想に基づく独創的・先駆的な研究への支援を行っております。これからも、その役割を全うし、学術を通じた世界の発展に一層寄与してまいります。

独立行政法人日本学術振興会 理事長
杉野 剛



JSPSの夕べ・新事務所お披露目会を開催

2025年8月8日（金）、JSPS北京研究連絡センターは事務所の移転を記念し、新事務所のお披露目を兼ねた懇親会を開催しました。日本側からは在中国日本国大使館、科学技術振興機構（JST）、理化学研究所、大学関係者等にご参加いただきました。中国側からは、中国科学院（CAS）、中国社会科学院（CASS）、中国科学技術部、北京市科学技術研究院等の政府機関関係者、並びにJSPS中国同窓会の会員等、総勢36名にご参加いただきました。

開会にあたり、山口英幸センター長



集合写真

より挨拶があり、これまでのJSPSと中国との交流の歩みや関係者との思い出を振り返りつつ、深い感謝の意が述べられました。続いて、中国社会科学院国際合作局 岳云霞 副局長、日本国大使館 名子学 参事官、JSPS中国同窓会 劉山虎 会長（河南大学教授）より、それぞれ心温まるお祝いの言葉をいただきました。乾杯のご発声は、中国科学院国際合作局（元JSPS研修員）張松林氏により行われ、和やかに会が始まりました。

JSPSは1981年に中国科学院から研修員を初めて受け入れて以来、2002年までに計21名の研修員を受け入れてきました。本イベントにはそのうち7名の方々にお越しいただきました。30年以上前、山口センター長とともにJSPS本部で仕事をしていた当時の思い出やご苦労が語られ、会場は懐かしい雰囲気に包まれました。



理事長の書

閉会にあたっては、中国科学技術部国際合作司 姜小平氏（元JSPS研修員）からご挨拶があり、盛会のうちに幕を閉じました。

なお、新事務所のセンター長室には、JSPS杉野理事長が今回の移転に際して揮毫された書「赤誠先手」が掲げられています。この言葉には、「異なる国・文化の方々と接する中で、常に真心をもって丁寧に対応するべきである」との理事長の思いが込められています。スタッフ一同、この精神を胸に、今後も誠実に業務に取り組んでまいります。

活動記録

(2025年7月～9月)

7月

- 7日 JSPS モンゴル同窓会年会・交流会を開催
- 9日 JSPS 中国同窓会王清遠副会長来訪
- 10日 在中国日本国大使館科技部一等書記官（科学技術）来訪
- 11日 在中国日本国大使館広報文化部参事官一行来訪、第10回在中国日本人研究者ネットワークさろん開催
- 16日 宝塚大学来訪
- 24日 日本商会会合出席
- 25日 全国日本人交流会出席
- 31日 広報文化十一者会出席

8月

- 8日 JSPSの夕べ・新事務所お披露目会開催
- 19日 JICA-中国科学技術部日中連携事業セミナー出席
- 25日 JSPS中国同窓会員、重慶交通大学梁旭璋博士来訪、広報文化十一者会出席、東京科学大学梶原教授と小倉教授来訪
- 28日 理研北京事務所来訪

9月

- 17日 電子科技大学におけるJSPS事業説明会
- 19日～20日 NSFC-CAS-JSPS共同シンポジウム
- 23日 欧米同学会留日分会鄧川江副会長来訪
- 26日 第18回日韓研究者交流協会（JSPS韓国同窓会）シンポジウム開催
- 27日 JSPS韓国同窓会理事会出席

2025 NSFC-CAS-JSPS共同シンポジウム 「Fatigue-resistant Additive Manufacturing Materials」

2025年9月19日（金）～20日（土）、成都市において NSFC-CAS-JSPS 共同シンポジウム「Fatigue-resistant Additive Manufacturing Materials」を開催しました。本シンポジウムは、JSPS のカウンターパートである中国国家自然科学基金委員会（NSFC）、中国科学院（CAS）と共同で 2013 年から開催しているもので、今回で通算 9 回目の開催です（2020～2022 年度は新型コロナウイル感染症の影響により未開催）。今年は、JSPS 中国同窓会副会長であり、四川大学教授でもある王清遠先生がシンポジウム全体のコーディネーターを務めました。「耐疲労性のある付加製造材料（Fatigue-resistant Additive Manufacturing Materials）」をテーマとし、日本、中国の計 18 名の方々より講演いただき、各研究機関に所属する研究者、博士研究員、大学院生等、延べ 100 名以上に出席いただきました。



集合写真

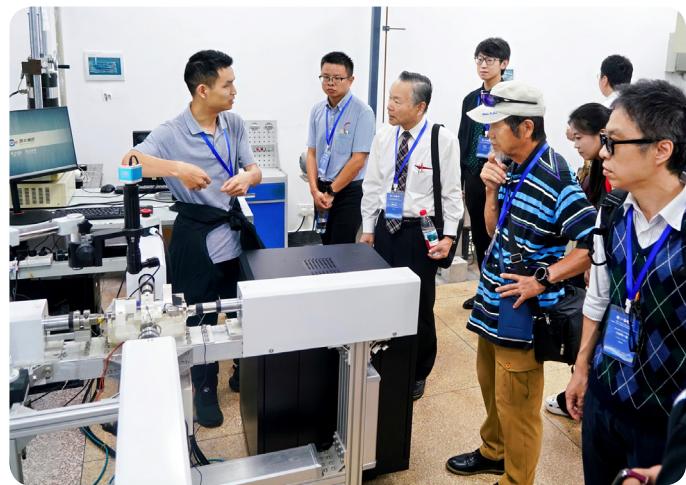
まず、実施機関を代表して四川大学科研院基金与成果管理部：袁晶副部長より挨拶の後、本シンポジウムの主催者である、NSFC 国際合作局アジア・アフリカ・国際組織処：張洪亮処長、及び CAS 国際合作局アジア・アフリカ合作処：陳海濤上席業務主管より挨拶いただきました。JSPS 北京研究連絡センターからは山口英幸センター長が登壇し、開会の挨拶及び JSPS の実施している事業について説明を行いました。2 日間の日程で実施された各セッションでは、日本から参加された立命館大学 酒井達雄名誉教授、徳島大学 村上理一名誉教授、九州大学 陳強教授、尚娟助教、笠間清伸教授、岐阜大学 植松

美彦教授、福岡大学 山辺純一郎教授、長岡技術科学大学 大塚雄市准教授 8 名の研究者を含む計 18 名の方々が登壇し、講演を行いました。



日本からの研究者、四川大学何超教授等との集合写真

各セッションに設けられた質疑応答の時間には、会場の参加者から様々な質問や意見が寄せられました。また、ティーブレイクにおいても盛んに意見交換が続き、日中の研究者同士が積極的に交流し、親睦を深める貴重な機会となりました。その後 20 日には、四川大学歴史館や建築環境学院の実験室の見学も行われました。



実験室見学の様子

王清遠教授並びに何超教授、研究室の皆様には、多大なるご尽力をいただき誠にありがとうございました。JSPS 北京研究連絡センターは、今後も日中研究者間の活発な研究交流の場として、本シンポジウムを継続的に実施し、発展させていきたいと考えております。

JSPSモンゴル同窓会年会・交流会を開催

2025年7月7日（月）モンゴル・ウランバートルの国立図書館にて、JSPS モンゴル同窓会の年会が開催されました。JSPS モンゴル同窓会は、過去に JSPS 国際交流事業に参加した経験のある研究者が中心となり 2023 年度に発足しました（2025 年 7 月現在非公認）。JSPS 北京研究連絡センターは同窓会員の結束力を強化し JSPS のモンゴルにおける認知度向上を目的に同窓会の活動を支援しています。

会場となった国立図書館の会議室には、若手研究者や大学院生など約 30 名が集まり、民族音楽の演奏で開会されました。その後、モンゴル国立大学の Tsolmon Renchin 同窓会長による司会のもと、山口センター長が挨拶を行い、今城副センター長が JSPS の事業

内容について説明しました。続いて、6 名の研究者からそれぞれ自身の研究について講演を行いました。なお、この日は天皇皇后両陛下がモンゴルを公式訪問されていたこともあり、山口センター長から、JSPS が今上天皇の祖父にあたる昭和天皇からのご下賜金を基に設立されたことが紹介され、参加者の間で友好的な雰囲気が深まりました。年会終了後は、会場を近くのレストランに移して交流会が開催され、会員同士の親睦が深められました。また、山口センター長、今城副センター長は、この機会にモンゴル科学アカデミー地理学・地生態学研究所とモンゴル科学アカデミー数学・デジタル技術研究所を視察し、現地の研究者と意見交換等を行いました。



Tsolmon Renchin 同窓会長（右）、D. Amarsaikhan モンゴル科学アカデミー・院士（左）



会場の様子

第10回在中国日本人研究者ネットワークさろんを開催

2025年7月11日（金）、中国国内の大学その他の公的研究機関で研究に従事している日本人研究者を中心とした「在中国日本人研究者ネットワーク」の会合である「在中国日本人研究者ネットワークさろん」を北京大学にて開催しました。今回は、北京大学心理・

認知科学院の納家勇治研究員がコーディネーターを務めました。中国各地で研究・教育・科学技術関連業務に従事する 12 名が参加しました。

さろんでは、納家研究員から「記憶のはなし」をテーマに自身の経験や日本、アメリカ、そして特に中国での

研究経験を交えた講話がありました。参加者による自己紹介と近況報告も行われ、活発な意見交換が行われました。参加者からは、「他の研究分野の話を聞くことは大面白く、話題提供が非常に興味深

研究経験を交えた講話がありました。参加者による自己紹介と近況報告も行われ、活発な意見交換が行われました。参加者からは、「他の研究分野の話を聞くことは大面白く、話題提供が非常に興味深

り、専門分野を超えた研究者同士の交流の場として有意義な機会となりました。また、納家研究員からは、北京大学における 10 年以上の研究・教育経験を踏まえた貴重なアドバイスもあり、参加者にとって多くの学びが得られる場となりました。最後は北京大学キャンパス内を散策し、博雅塔や未名湖、歴史ある建物と緑豊かな自然が融合した風景を楽しみました。

JSPS 北京研究連絡センターでは、今後も本ネットワークを通じて継続的な交流と情報共有を行ってまいります。お近くの研究者とお誘いあわせの上、是非次回のさろんにもご参加ください。<https://www.jsps.org.cn/jspbj/site/rbxz/rbxzjp.htm>



集合写真 かった」との感想があ

電子科技大学にてJSPS事業説明会を開催

2025年9月17日（水）、成都の電子科技大学にてJSPSが実施する国際交流事業の説明会が開催されました。本説明会は、JSPS中国同窓会の会員である中国科技大学の趙宝華先生のご尽力により実現したもので、JSPS北京センターからは、山口センター長、今城副センター長が参加いたしました。会場には約40名の若手研究者や大学院生が集まりました。

事業説明会は、電子科技大学国際合作・交流課の曾其剛副課長の進行により始まり、山口センター長の挨拶に続き今城副センター長により外国人特別研究員などのJSPSの各種プログラムについて説明が行われました。その後、趙

宝華先生からの、JSPS事業への申請方法等について具定例を示しつつの説明と、電子科技大学計算機科学・工程学部の谷雨教授からの、日本での研究生活についての報告がありました。谷雨教授は、JSPSの外国人特別研究員に採用され2010年から2年間国立情報学研究所で研究を行った経験があります。参加した若手研究者たちは日本でキャリアを積むことに強い関心を持っており、いずれのプレゼンテーションにも



熱心に耳を傾けていました。なお、説明会に先立ちJSPS北京センター一行は、羅光春副学長を表敬訪問し、日中の大学間の学術交流等について意見を交換いたしました。

日韓国交正常化60周年記念 第18回日韓研究者交流協会(JSPS韓国同窓会)シンポジウムを開催

2025年9月26日（金）、韓国・ソウル市のソウル大学蓮建キャンパス医科大学大講堂において、第18回日韓研究者交流協会（JSPS韓国同窓会）シンポジウム「持続可能な日韓協力の道を模索する」を開催し、研究者・学生等約80名が参加しました。本シンポジウムは日韓国交正常化60周年記念事業として在日韓国科学技術者協会及び日韓工科大学理工系学部留学生総同窓会などとの共催で行いました。

開会式では、JSPS韓国同窓会長である延世大学のキム・テクジュン教授が挨拶を行い、続いてソウル大学のイ・ホヨン医学部研究副学長、日本学術振興会の水本哲弥理事、在大韓民国日本大使館の大西一義経済公使、韓国研究財団（NRF）のカン・ドンソプ国際協力本部長、在日韓国科学技術者協会のホン・ジョン

グク会長、日韓工科大学理工系学部留学生総同窓会のイ・ジュウォン会長から祝辞が述べされました。

講演のセッションでは、日本から2名の研究者（北海道大学の門出健次教授、立命館大学の中戸祐夫教授）が、韓国から2名（素材・部品・装備技術融合研究組合のソン・ハクギョン理事長、建国大学のイ・グアンホ名誉教授）が講演を行いました。その後、日韓工科大学理工系学部留学生総同窓会、在日韓国科学技術者協会、日韓研究者交流協会（JSPS韓国同窓会）からそれぞれ機関紹介が行われ、自身の日本での経験も含めて継続的な日韓協力・交流に果たす役割を参加者と共有しました。

事業説明のセッションではJSPSとNRFがそれぞれの事業を紹介し、両機関が連

携して実施している事業についても説明しました。JSPSとNRFは1979年にNRFの前身である韓国科学財団（KOSEF）と研究者交流事業を開始して以来、40年以上にわたって両国間の学術交流の発展に貢献してきました。さらに、JSPS韓国同窓



JSPS韓国同窓会員と日本からの研究者、水本理事などの集合写真
会員のヨン・ギュヨン教授（建国大学）からJSPS事業経験談が共有され、海外での研究経験の重要性が語られました。

今年は日韓国交正常化60周年という記念すべき年であり、シンポジウムにはソウル大学や延世大学等の学生や若手研究者も参加しました。キム会長から「持続可能な日韓協力の道を模索する」というテーマには、過去を記念するだけではなく、今後、両国がいかに協力の枠組みを継承し、さらに発展させていくかを共に考えるという意味を込めていたとの言葉がありました。JSPS北京研究連絡センターとしてもこのシンポジウムが今後の日韓学術交流促進のきっかけとなり、日韓の学術連携の未来を担う若手研究者たちへの力強い励みとなることを心から願っています。



シンポジウム登壇者等の集合写真

編集後記

事務所移転を記念したJSPSのタベを開催しました。開催日である8月8日の「8」という数字は、日本でも中国でも縁起が良いとされています。中国では「発財(財を成す)」の「発(fa)」と「8(ba)」の音が近いことが理由だそうで、北京オリンピックの開会式を2008年8月8日午後8時8分にスタートしたことが有名です。逆に中国で避けられる数字は「4」です。「4(si)」と「死(si)」の音が非常に近いからです。そのため中国の建物には4階が存在しなかったり、「3A」等に置き換えられたりする場合があります。しかしなんと!北京センターの以前のオフィスは4階404室でした。そんなまさかの数字の並びを乗り越えてきた私たちだからこそ、移転後はさらに縁起よく、勢いよく、発展していくに違いありません。

副センター長 今城佳奈子

～ウランバートル、成都、ソウルの思い出～



日本語に興味津々な隣の席の子ども@ウランバートル・ケンタッキー



ウランバートル・スフバートル広場より



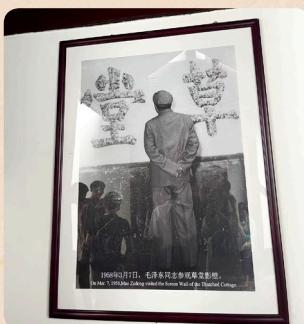
韓国料理で一番好きなポッサム@ソウル



韓国同窓会員とトップッキとおでん@ソウル・屋台



気分は毛沢東主席@成都・杜甫草堂



在りし日の毛沢東主席



2019年李克強首相、文在寅大統領、安倍晋三首相@成都・杜甫草堂

日本学術振興会 北京研究連絡センター
JAPAN SOCIETY FOR THE PROMOTION OF SCIENCE BEIJING OFFICE

北京市朝陽区東三環北路5号 北京発展大厦 1021室

Tel: + 86-10-8882-4331 E-mail: beijing@jfps.org.cn URL: www.jfps.org.cn



WeChat